

視察・研修報告書

視察・研修先	大野城市 心のふるさと館
日 時	2024年 4月10日 14時00分～16時00分
場 所	大野城市 心のふるさと館
テーマ	実践（体験型研修）!!どう創る?チーム議会
(講師)	ローカル・マニフェスト推進ネットワーク九州代表 神吉 信之さん
概 要	<p>「議会は仕事をしている」と議員は思っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事前非公式調整という仕事</li> <li>・ 段取りの調整としての仕事</li> <li>・ 形骸化した議会の公式の審議</li> </ul> <p>しかし「議会は仕事をしていない」と認識している市民が多い。</p> <p>議会の存在意義は</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 複数の視点で討議ができる</li> <li>・ 1人の視点から見ると、多角的で深い論点が見えてくる</li> <li>・ 討議を通して論点が社会に伝わり（議会の報道機能）、世論が形成される</li> </ul> <p>であり、その時々々の民意に耳を傾けながら、結論を出すことができるからこそ、本当の民主主義を構築できるのである。</p> <p>すなわち、議決以上に大切なことは、討議過程を通して「論点」「争点」を発見・公開することこそ、議会の使命である。</p> <p>フォーラムでは、市民意見を起点とした議会改革のとりくみとして</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 会津若松市議会の政策サイクル</li> <li>・ 小学生、高校生、ママさん議会、模擬選挙</li> <li>・ こどもや若者に関する政策を決める際に本人たちの意見を聴くための若者会議</li> <li>・ 議会のチラシや、傍聴者による議員各自の一般質問に対する評価（通信簿）等のとりのくみ</li> <li>・ オンライン委員会、オンライン一般質問</li> <li>・ 子育て議員に優しく、柔軟な対応</li> <li>・ 市民による議場でのフリースピーチ制度</li> </ul> <p>などが紹介された。</p> <p>ちなみに「有権者は議会に無関心だ」という調査結果も提示された。</p> <p>とてもそう思う…11. 4%</p> <p>ある程度そう思う…55. 2%</p> <p>あまりそう思わない…28. 7%</p> <p>全くそう思わない…2. 9%</p> <p>回答なし…1. 8%</p> <p>驚くべき事に、「とてもそう思う」「ある程度そう思う」を合わせると約7割。無関心こそが最大の問題なのである。</p> <p>だからこそ、議会の「見えるか」「見せる化」が重要であり、サイレントマジョリティ</p>

の声を議会に届けるとりくみが求められている。

後半は、参加者（全員が大野城市議）で、参加型の研修を行った。

「これからのまちづくりに必要なこと」と題し、それぞれの意見を出し合った。

#### 所 感

議会のDX化は、議会の公開と情報共有のために推進すべきだと思った。

また、ウェブ会議などは、他の自治体の実践例を聞くと、家族が感染症にかかり外部の人との接触を控える必要がある場合や、産前産後や介護などで議会への出席が困難な議員が議論に参加し議員活動を行うために有用であるという事が分かった。DX化は目的ではなく、対面で議論するのが原則ではあるが、議場に行くのが困難な場合もきちんと議論に加わり意見表明するための一つの方策となりうる。

多様な市民の声を聞く試みを行っている自治体の実例は、とても興味深いものであった。

—永利 恭子—

後半の参加型の研修で、「大野城市はすてきなことをたくさんやっているのに、宣伝が下手」という意見がありました。

市議会で様々なことにとりくむ際の告知について質問すると、そのほとんどが「ホームページ、ライン、市政だより」と答弁されます。

しかし、議員になる以前、市政だより・市議会だよりを熟読する習慣のなかった私にとって、それらの情報媒体では多くの市民に伝わらないだろうなあと感じてしまいます。

今回の研修で、北海道鷹栖町の「議会のチラシ」や、「傍聴者による議員各自の一般質問に対する評価（通信簿）等のとりくみ」を知ることができました。

新たな情報媒体を見つけるのではなく、現行の媒体を、読み手の興味を引く内容にするというのは、まさに発想の転換であり、今後挑戦していきたいと思っています。

—河野 敏生—